

Stereo Amplifier & Tuner

プリメインアンプ・チューナー

YAMAHA

CA-X1

ステレオプリメインアンプ ¥49,500

●新製品CA-X1は、同時発表のCT-X1とともに、典型的なヤマハ・トーンである今までの『音楽の微妙なニュアンスまで再現できる気品ある音』に対して、もう一つの新しいヤマハ・トーンとして『ステージ・サウンドのリアリティをアライブに鮮烈に表現するストロン

グでクリアな音』をテーマに開発されたニューコンセプト・シリーズです。ロックやポピュラーやジャズはもとより、クラシックにあっても、生の音楽の音は暴力的なまでに激しい「力強さ」と、息が詰まる以上に透明な「美しさ」を持っていますが、ニューコンセプト・シリー

ズは、この二つを「Strong & Clear」をテーマにして徹底的に追求して創造した作品です。

●CA-X1は、徹底したクオリティ追求機です。カレントミラ回路を前置した差動入力以下4段直結のイコライザ、同じくカレントミラ回路をコンビネートした差動入力以下ピュアコンプリメンタリイダーリントン接続の全段直結OCL方式のパワーアンプと、その回路構成は典型的なヤマハ・風で、全く贅沢で緻密に仕上げられています。堂々たる「本物」です。

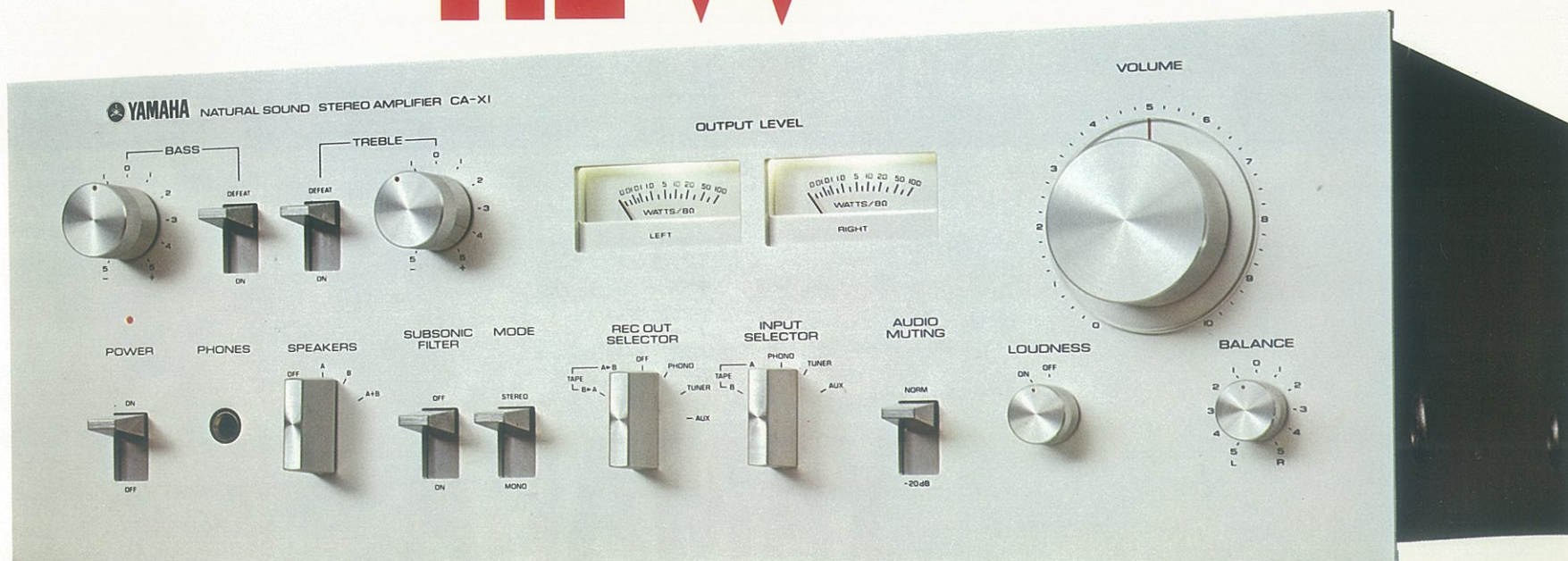
●歪率の絶対値を一桁下げることがテーマに、YHP社の測定機を測定するための最新鋭測定機を開発導入して、イコライザの歪率は全帯域にわたって0.01%以下、メインアンプの歪率は40W+40Wの最大出力で20Hz~20kHzで0.05%以下です。そして、最大出力から微小出力まで、とりわけ常用出力のゾーンを中心に低歪率をコンスタントに維持すべく努めて、250mWから40Wまで殆ど歪率は劣化しません。さらに、歪成分や歪波形の吟味を徹底して、

良くできたA級動作なみにスイッチング歪も高次高調波歪もクリアされています。サインウェーブにパルスを重ねさせる動特性チェックでも、原波形と区別できないほど正確です。●そしてCA-X1は、ギャングエラを-70dBまで偏差±1dB以内に押えた高精度ボリュームや0.01Wから100Wまで直読できるパワーメータ、それにたとえばFMを聴きながらレコードをダビングできるユニークなREC・OUTセレクターなど、マニアライクな装備です。

250mW~40Wまで歪率0.05%以下の、新しいヤマハ

NEW

STRONG
& CLEAR



CT-X1

ステレオチューナー ¥35,000

●新製品CT-X1は、ペア・アンプのCA-X1ともども、再生音楽の「音」からの発想によってではなく、生の音楽の「音」からの発想によって音造りされています。ヤマハの音の感覚とオーディオ技術が見事に結合したこのニューコンセプト・シリーズは、生の音楽に通暁

した人々に捧げられる新しいオーディオとして、ステージ・サウンドと再生音の差を一気に短縮しようとしています。そしてニューコンセプト・ラインは、すべての結果が「音の差」として聞きとれない限り無意味だという立場から、すべてを「音」で語り、すべてが「音」で語

られます。すべてを「音」に問うてください。

●CT-X1は、あらためてシビアにFM放送を聴き直そうという徹底したクオリティ追求機です。ジャンクション型FETと3連バリコンのフロントエンド、6素子セラミックフィルタと6段定電流バイアス差動リミッタのIF段そして初めてのNFB(負帰還)をかけたPLL方式のMPX段と、その回路構成は見事にヤマハ好みで、全く先進的であると同時に全く贅沢に設計されています。いかにも「本物」です。

●IF段のセラミックフィルタやディスクリミネータは、ヤマハ独自の微分利得直視法によって伝送特性を詳細にチェックされ、実効選択度75dBにキャプチャレシオ1dBといった抜群の選択性と同時に申し分のない低歪率を実現しています。そして、スイッチング信号系を容易に高安定化できるPLL方式のICに、ヤマハが開発したNFBスイッチング回路技術をドッキングして、PLL・IC回路を100%のNFBループの中に入れてしまっ、ここで発生する

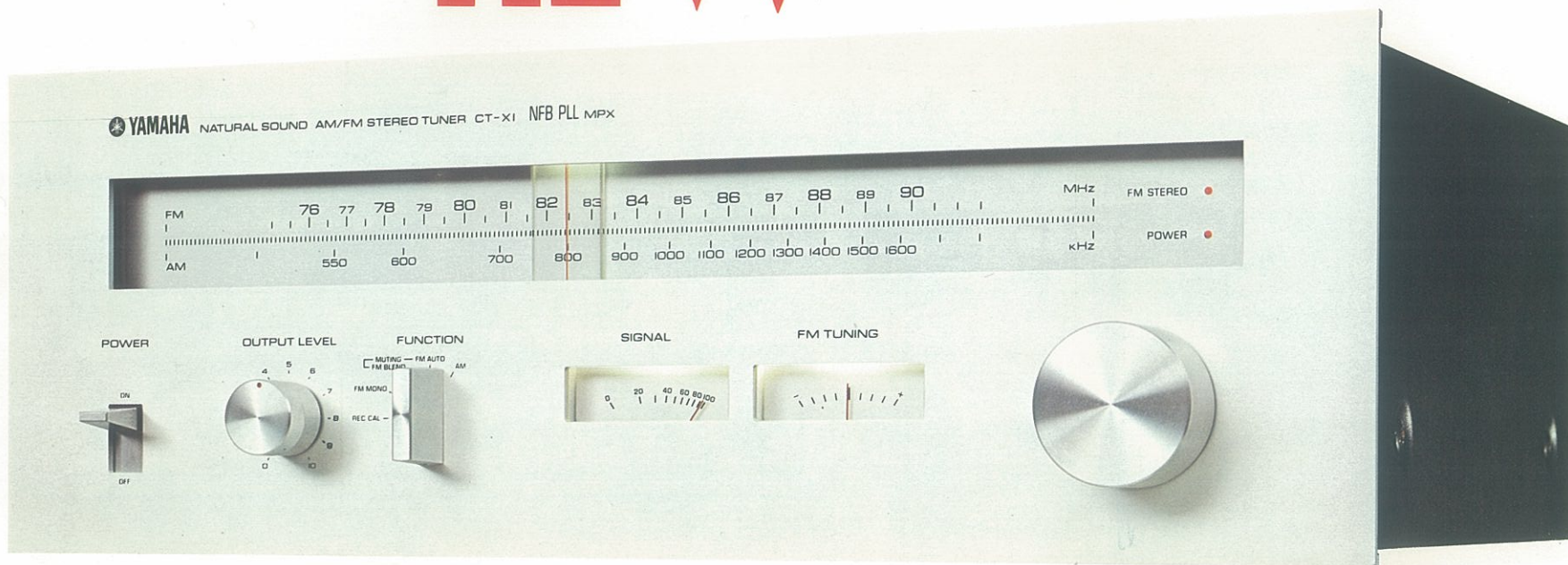
歪やノイズを完全といえるほどに抑圧しています。ステレオ時、オーバーオールで、0.25%以下という低歪率と40dBというセパレーションで実にストロングでクリアなFMステレオです。

●そしてCT-X1は、アンテナのセッティングの良否をチェックできる妨害検知タイプのシグナルメータや正確で楽しいエアチェックを可能にする333Hzのレコーディングキャリブレーション、それにセンタークリック式レベルボリュームなど、マニアライクな装備です。

NFB・PLL方式のMPX回路搭載の、新しいヤマハ

NEW

STRONG
& CLEAR



CA-1000II

ステレオプリメインアンプ ¥125,000

●名品というものは、仕上げの細やかさを含めたデザインと、そして手触りによってすべてが知れてしまうものです。羽根のように軽く、氷片のように滑らかな操作上の手触り。そうして絹のようなヘアラインのシルバーホワイトのパネルフェイスと、清々しい木

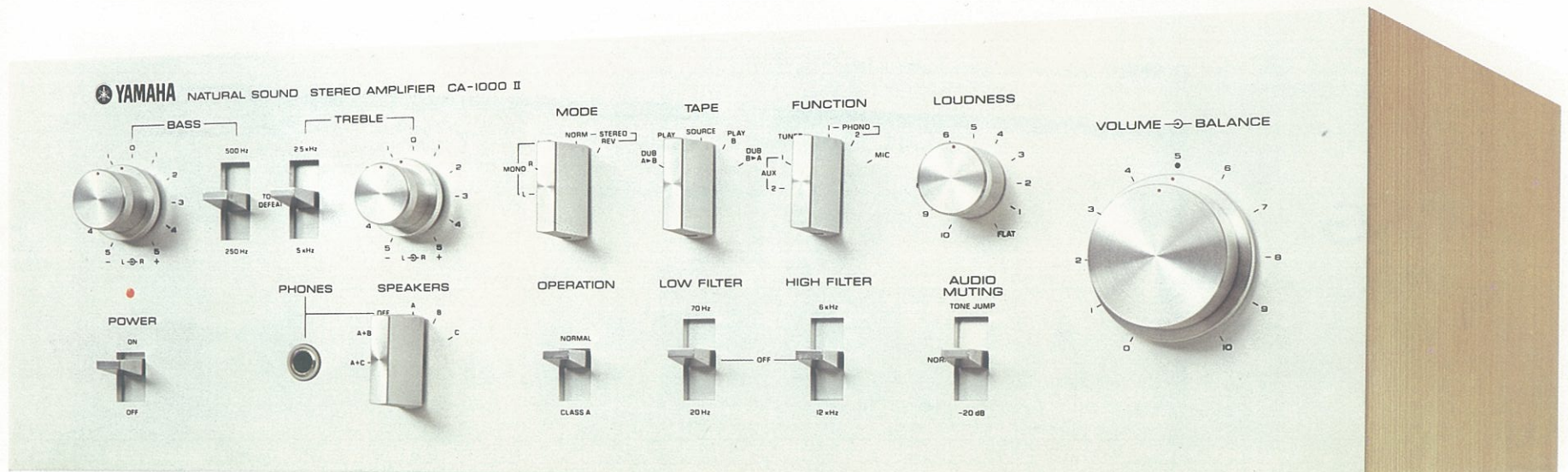
の香りに満ちていそうなキャストール(栓)の白木のキャビネットのコンビネーション。CA-1000IIは、見るからに、触れ初める刹那に、名品そのものです。オーディオの心です。●CA-1000IIは、全段直結ピュアコンプリメントリイOCL回路のパワーアンプから、ヤマ

ハ・オリジナルのデュアルFETによる入力段とTrによるA級SEPP出力段構成のイコライザアンプまで、実に独創的で豪華な新しい回路構成からできており、そしてすべての回路をコンピュータを駆使するCAD手法で解析し尽くしたことも含めて、全く緻密にして精巧な高次元の完成度です。当然、最先端の第一級の特性レベルを軽くクリアするデータです。●さらにCA-1000IIは、初めてB級→A級切

80W+80Wのハイパワーによってオーケストラやジャズの昂まりを余裕を残して演奏し、15W+15WのA級動作では、室内楽などを至上の透明度のクォリティで演奏してのけます。●CA-1000IIの音は、『音楽の微妙なニュアンスまでを再現する』アカデミックなまでにオーソドックスなもので、きわめて高いソノリティを秘めた『気品あふれるヨーロピアン調』です。●CA-1000IIは、その回路の完成度と卓抜な特性によって、そしてそのナイーブに美しい

デザインと繊細な手触りによって、そして何よりもそのヤマハ・トーンによって、以後のCA-800II/600/400シリーズを見事に貫いて統一している原典的な存在です。そしてCA-1000IIは、長いオーディオ遍歴の最後に手にするプリメインアンプとして、マニアを超えるマニアにお使いいただきたい作品です。●プレーヤ2台、テープデッキ2台、スピーカ3組の端子装備。コンティニューアスラウドネス、オーディオミューティング回路内蔵。

触れ初める刹那に、すでに忘れがたい名品です



CT-7000

ステレオチューナー ¥220,000

●こうしたオーディオ機器を前にしては、ただ溜め息をつく以外に何かできるでしょう？ CT-7000には、チューナのすべてがあります。重厚に軽やかなチューニングダイヤルを音もなく廻すと、王室のロールスロイスのようにいつ動き出していつ止まったか分別できない

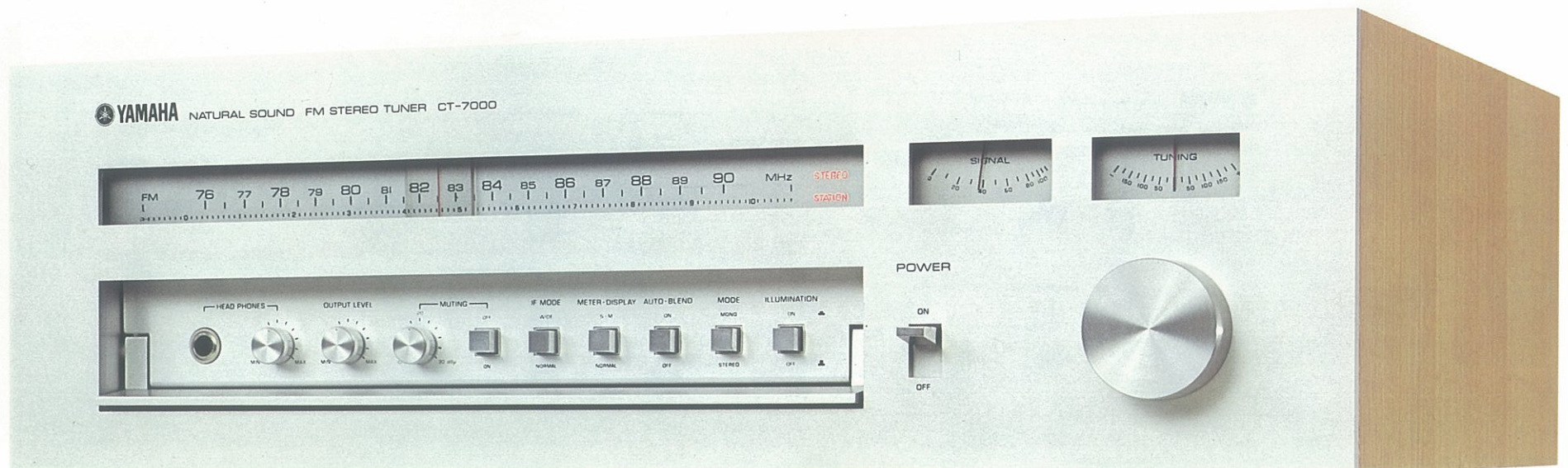
静粛さでダイヤル指針が滑走して、一本の神経で結ばれたような敏感さと慎ましい上品さで2つのメータの針が振れます。夢のような淡いブルーグリーンのイルミネーションが灯って、チューニングのフィーリングがチューナにとって本質的であることが痛感されます。

●すべてに世界最高の特性をマークすることを前提に設計されたCT-7000では、従来の測定器の限界を超えるレベルに挑戦するためにまず特別仕様の各種測定器を開発することから始めて、その完成に4年を費やしています。7連バリコンとデュアルMOS型FET使用のフロントエンド、微分利得特性を改善したブロックフィルタと7段差動増幅を備えた帯域2段切換えのIF回路、そして同じく微分利得偏差を最小に抑えたディスクリミネータ、さら

にはヤマハだけのNFBスイッチング方式によるMPX回路とディスクリットに構成したPLLサブキャリア発生回路などと、正に絢爛豪華に高度で贅沢で独創的な回路群の連続です。●ついに120dBに達したイメージ・IF・スプリアスの各妨害排除特性、85dBの実効選択度や0.7dBのキャプチャレシオ、そして何よりもモノラル⇄ステレオで不変の0.04%以下という例外的に一桁小さな世界記録的歪率と50dB以上という実に大きなセパレーションです。

●メカニカルな印象のコントロールスイッチ類をすべてシーリングパネルの内に収納してしまっ、クローズの状態でのデザインはいかにもピュアでドレッシィで、その音ともども、『格調』と『気品』を直感させてくれます。オーナーという言葉があまりにも似つかわしいCT-7000の所有です。オーディオの心です。●オートブレイド、FM可変ミュートイング、マルチパス検出端子、IF出力端子、2系統出力端子、低歪率OTLヘッドフォンアンプ装備。

FMステレオを0.04%の歪率で聴ける名品です



CA-800II

ステレオプリメインアンプ ¥95,000

●CA-800IIは、あらゆる意味でもう一つのCA-1000IIです。パネルフェイスにしても、型番をのぞくと、どこが違うのか分からないほどです—実際は、トーンコントロールの左右独立が運動に変わって、スピーカ端子が3組から2組になっている点だけが違います。

●B級↔A級切換えのパワーアンプも、全段直結ピュアコンプリメンタリイOCL回路の構想も、ブートストラップ回路を削除して位相の乱れをなくして秀れた過渡特性と分解性能の抜群な低音を達成していることも、そうして測定器の限界に接する低歪率も、全く同じです。

ただパワーだけが、B級動作で55W+55W、A級動作で10W+10Wと小さくなっています。つまり質的には同一で、量的に幾分小さな双生児ということになります。能率の悪いスピーカーの場合や特に広い部屋で大音量で鳴らしたい場合にはCA-1000II、普通の能率のスピーカーで普通の部屋で鳴らす場合にはパワーに十分たっぷり余裕を残してCA-800IIです。

●ところで、B級・A級というのは増幅の仕方の違いといった名前で、決してランクを示す

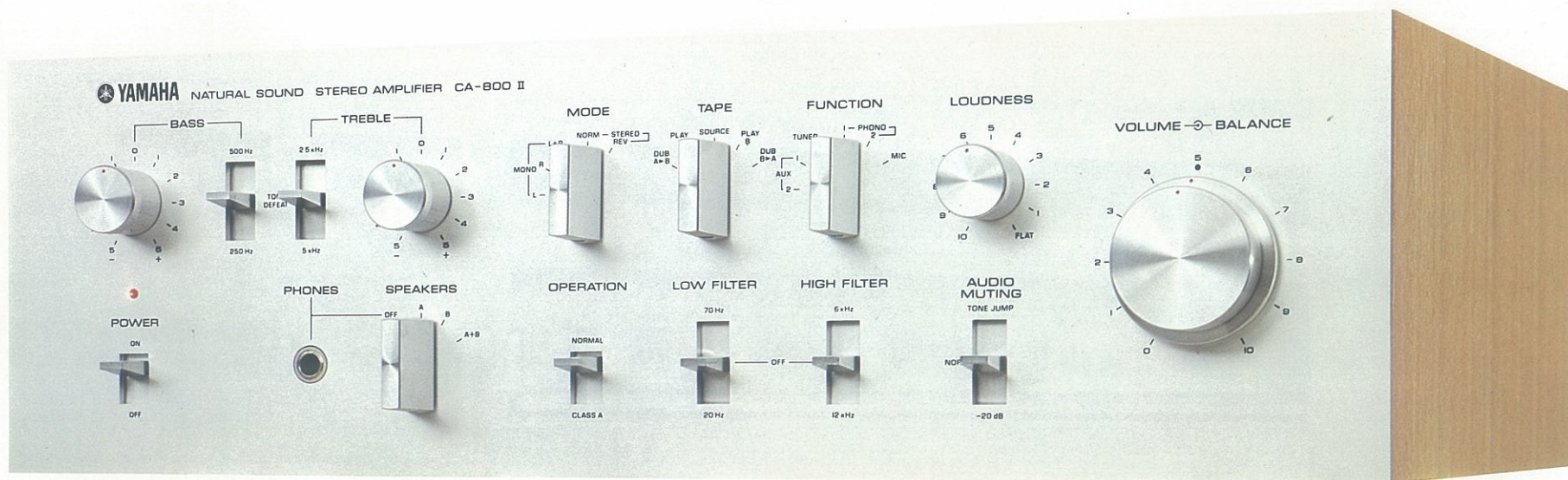
ものではありません。B級動作は、入力信号の⊕と⊖を別々のTrで増幅して出力段で一つにまとめる方式で、現在のほとんどすべてのアンプの標準方式になっていて、パワーが出しやすい反面、⊕と⊖の継ぎ目にスイッチング歪が出やすくなります。A級動作は、⊕と⊖を同一のTrで同時にスムーズに増幅する方式で、原理的にスイッチング歪などが存在しない反面、パワー効率が悪くなっています。CA-800IIは、CA-1000II同様、瞬時にB級

↔A級を等音量での切換えが可能で、これによってB級時のクオリティが、至上のクオリティと呼ばれるA級時に聴き劣りしないまでに切差琢磨され、極度に精練されています。

●NFB方式の4段直結イコライザアンプも、310mVの実に大きな許容入力、±0.2dB以下の精密なRIAA偏差ともCA-1000IIと同様です。

●プレーヤ2台、テープデッキ2台、スピーカ2組の端子装備。コンティニューアスラウドネス、オーディオミュート回路内蔵。

高い完成度があつてのB級↔A級切換え方式です



CT-800

ステレオチューナー ¥75,000

●CT-800は、あらゆる意味でCT-7000の影響を直接的に受けています。チューニングなどのタッチフィーリングは、まるで同じですし、すべての特性もCT-7000を除けば実用上十分すぎるレベルに達しています——ステレオ受信などを示す小さなルビーのような深紅の

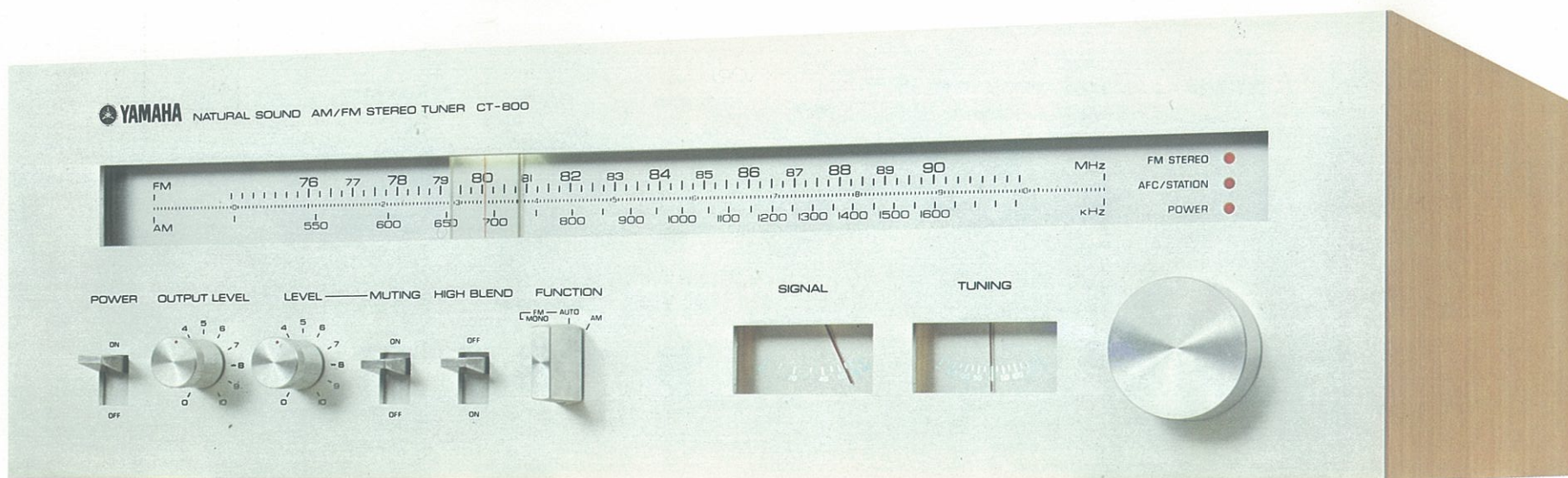
インジケータはCT-7000にはない魅力です。●CT-800は、チューナの歪率や分離度など直接的に音質を支配するオーディオ特性の決め手となるIF段とMPX段を、CT-7000で開発された微分利得直視法とNFBスイッチング方式で十分にハイフィデリティに上げています。

●微分利得直視法は、IF段のフィルタやディスクリミネータを通常特性カーブよりも一歩突っ込んでその伝送特性まで内容的に解析できる方法で、微分利得偏差を最小に抑えることによって、そこを通過する信号の位相特性を広帯域にわたって維持することができます。これによって、通常は矛盾する低歪率・広帯域化と高選択度の両立が可能になっています。●MPX回路には、ヤマハ独自のスイッチング方式平均値復調回路にNFB(負帰還)をかける

新方式で、これによってこのステージでの歪率は0.05%以下とネグレクティブ・スモールに仕上がっています——TrアンプがNFBによって低歪率化したと全く同じ足跡をたどっています。この方式では従来のSCAフィルタも不要になるため、SCAフィルタによる位相特性の劣化が一切なく、混交調歪の改善とともに高域のセパレーションを十分に保証します。●フロントエンドはデュアルゲートのMOS型FETと4連バリコン使用、IF段はICによる7

段差動増幅と6素子セラミックフィルタ、そしてMPX段はあらゆる点でヤマハ・オリジナルといった存分に贅沢な構成のCT-800です。各妨害排除特性は100dBに達し、80dBの実効選択度と1.0dBのキャプチャレシオ、歪率はステレオ時0.3%以下に45dBというセパレーションで、『気品あふれるFMの音』が鮮明です。●ハイブレンドフィルタ、マルチパス検出端子、IF出力端子、2系統出力端子、オートタッチチューニングなど付属回路もマニアライク。

微分利得直視法プラスNFBスイッチング方式です



CA-600

ステレオプリメインアンプ ¥75,000

●CA-600は、音で言えば、再生音楽にはるかに過度のものを期待される方に、そしてオーディオ度で言えば、さらに深くオーディオの深淵に踏み入ろうかというマニア上級の人々に捧げられる高濃度のプリメインアンプです。次に使うヤマハというイメージです。

●CA-600は、きわめて酷似したCA-800 IIのすぐの弟です。CA-800 IIから、A級動作のポジションを除いて(7W+7W程度の小出力になってしまうので)、トーンコントロールのデフィートをロー・ハイ連動にすると、見分けもつかないそっくりな顔でCA-600です。

●CA-600のメインアンプは、高級回路の代表でもある全段直結ピュアコンプリメンタリOCL回路で、5Hz~70kHzという高級機のレベルのパワーバンド幅を実現し、0.1%の歪率で35W+35Wのパワーを得ています。A級動作を省略した点については、1W出力時に0.04%以下という大変な低歪率によって小出力時の圧倒的なクオリティを維持しています。

●CA-600のイコライザアンプは、CA-800 IIのそれと同一のNFB方式4段直結回路と何と

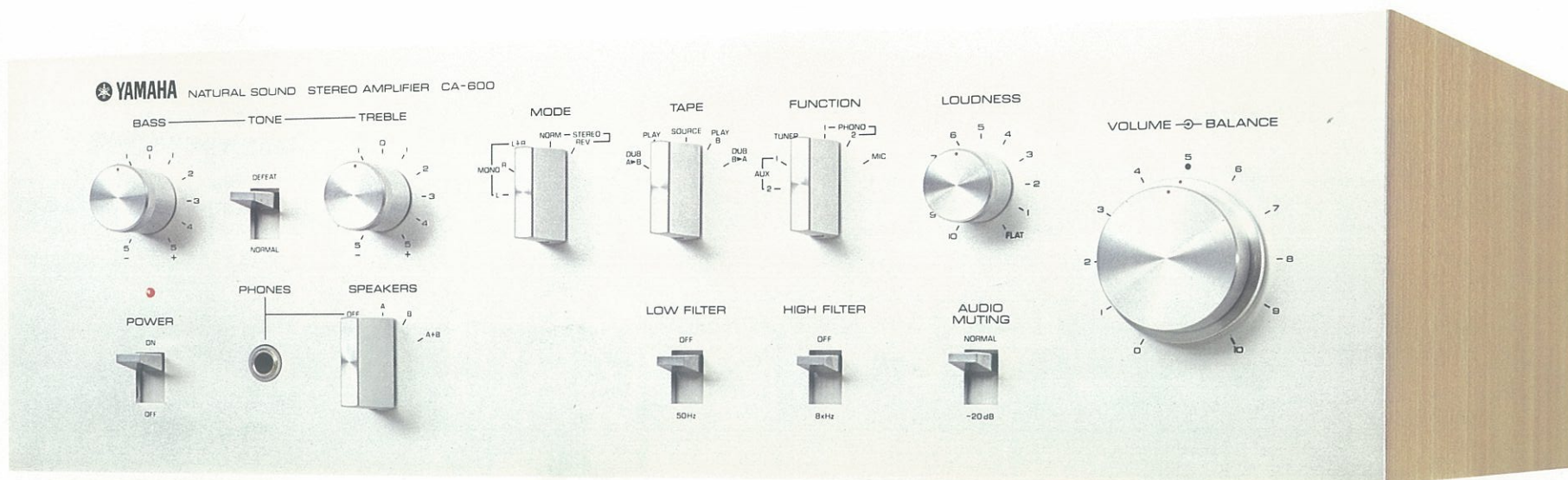
も豪華な構成です。出力段はエミッタフォロアとし、Trを大振幅まで直線性よく使うべく+50Vの高い定電圧で駆動しています。Trは当然、低雑音タイプで、中でも初段の石は動作点のNF(雑音指数)についてまで一つ一つ厳選しており、イコライザ素子も誤差±1%~±2%の高精度CRを使用しています。このため310mVという壮大な許容入力と±0.2dB以下のRIAA偏差という精密この上ない値です。S/Nも、コンピュータを駆使してのCAD手法

で解析された基本回路の高度さと配線パターンの検討や基板と端子の直結化などによってphonoで80dBを超える素晴らしいです。

●ヤマハの高級機に共通のコンティニューアスラウドネスは、ボリュームとは独立に、スピーカの能率や部屋の広さに応じて最良の聴感バランスで音量を絞られる独創の回路です。

●プレーヤ2台、テープデッキ2台、スピーカ2組の端子装備。その他オーディオミュージング回路など、付属回路も豊富です。

コンティニューアスラウドネスの利き味をどうぞ



CT-600

ステレオチューナー ¥60,000

●CT-600は、きわめて酷似したCT-800のすぐの弟です。CT-800から、ミューティンクの連続可変を最適値固定のON-OFFに変え、見分けもつかないほどそっくりの顔でCT-600です。タッチフィーリングは、むしろCT-800似というよりはCT-7000直系です。

●CT-600も、CT-7000以下、ヤマハ・チューナーの一貫した大きなテーマである入力依存性の最小化を徹底的に追求しています。つまり、アンテナ入力レベルの大小によって受信クオリティが少しも影響されないようにしようという実用に即した技術開発です。具体的

には、フロントエンドとIF段の回路設計にあたって特に位相特性や強入力特性を重視して、弱電界から120dBの重電界まで安定した受信を可能にしています。局からはるかに離れたローカルで受信する場合でも、局の真下のような都会で受信する場合でも、入力レベルの大小に少しも依存せずに、素晴らしい歪率とセパレーションの受信クオリティを維持します。

●電波の強い局から弱い局まで正確に受信するというところでCT-600は、CT-800と同一

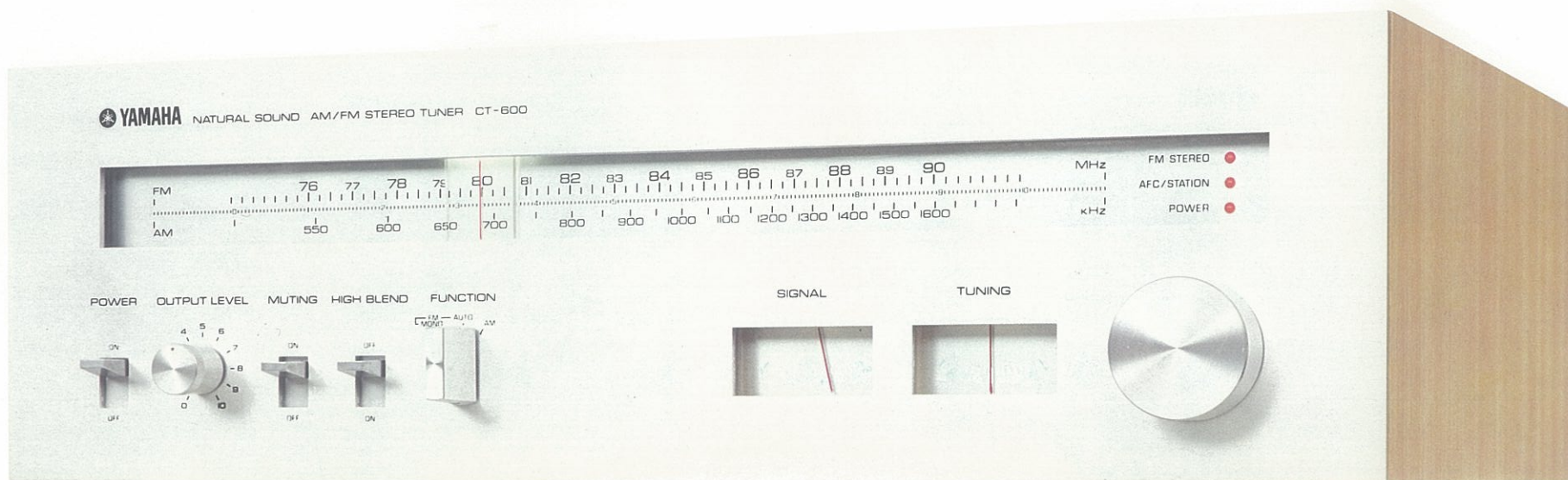
のAFC/STATIONインジケータ——オートタッチチューニング機構を贅沢に装備しています。AFC回路は、受信状態を安定に維持する反面、選局時には強電波に隣接した弱電波を選局しにくくしてしまう欠点があるため、このヤマハ独特の機構は、選局時にチューニングダイヤルに手を触れると自動的にAFCを解除し、選局を終えて手を離すと自動的にAFCが動作して安定した受信を維持する機構です。

●フロントエンドはデュアルゲートのMOS型

FETと4連バリコン、IF段は微分利得直視法でチェックされたICと6素子セラミックフィルタ、そしてMPX段は最新の高精度C。各妨害排除特性は90~95dBに達し、75dBの実効選択度と1.5dBのキャプチャレシオ、ステレオ時の歪率0.5%以下にセパレーション40dBという申し分のないデータです。いかにもヤマハらしい「気品あふれるFMの音」が響やかです。

●ハイブレンドフィルタ、マルチパス検出端子、IF出力端子、2系統出力端子などを装備。

オートタッチチューニング機構の利き味をどうぞ



CA-400

ステレオプリメインアンプ ¥55,000

●CA-400は、いくつかの入門機を終えて、いよいよオーディオというものを一段と高いレベルで味わおうかという段階のマニア中級の人々に捧げるヤマハの傑作機です。4段階のパワー・ランクに分けられたCA-1000II以後の白い印象CAシリーズの中で一番若い型番を

持ち一番最後に発表された機種としてのCA-400は、ある意味では、CA-1000II以降の製品が蓄積した技術力を最も円熟させ自由に伸び伸び駆使した最も進んだ回路構成です。

●例えばCA-400のメインアンプは、差動アンプ出力をプッシュプルで取り出しA級動作

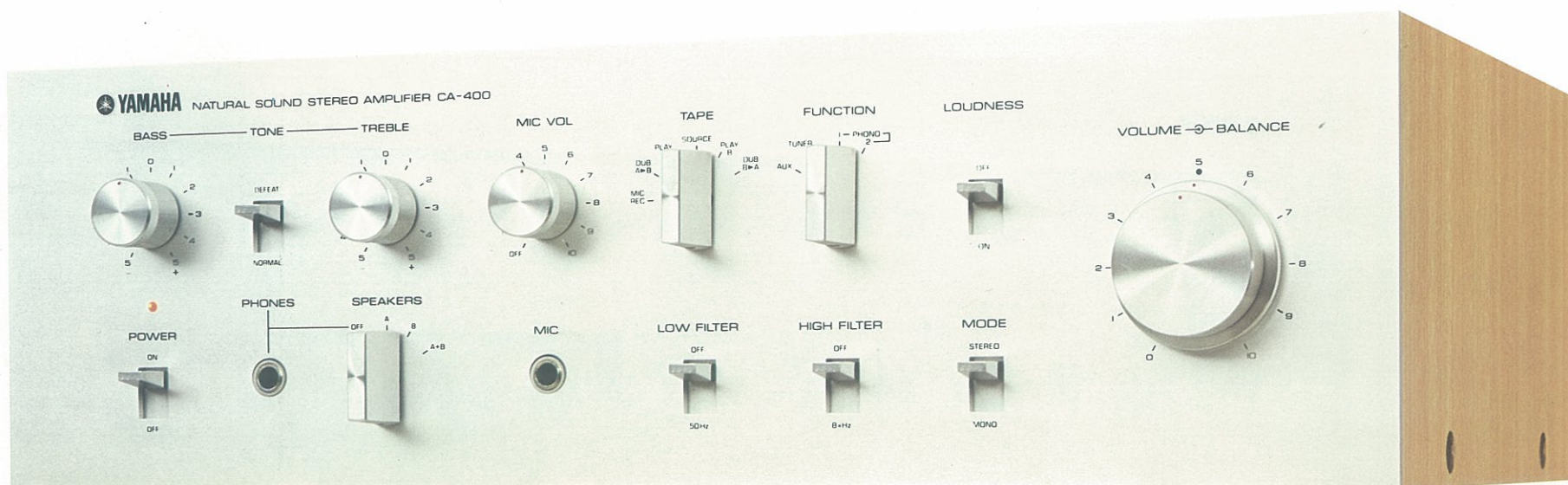
のドライブ段を定電流で駆動する特許の回路や、位相の乱れの原因となるブートストラップ回路を省略するためのゲインの大きなカレントミラ回路の採用など、高価なセパレートアンプにも稀にしか見られぬ高級回路を使っています。その結果、歪率は、良く言われる超低歪率という言葉がいかにもふさわしい大変な低歪率で、しかも、歪の絶対値が圧倒的に小さいだけでなく、その内容となる歪波形や歪成分まで入念にチェックされています。

●歪率は、同じ0.1%でも、微量でも決定的な作用を示す青酸カリにも似て微量でもきわめて耳障りなスイッチング歪や高次の歪がどれだけ混入しているかで聴感とはまるで違うものであり、こうした歪成分や歪波形の吟味で得られたピュアな音こそ、ヤマハの音です。

●CA-400の22W+22Wは、通常の家での演奏には十分なものであり、その音量感、歪成分や歪波形まで吟味された低歪率と、1kHzのサインウェーブに2.5 μ sのパルスを複合

させるといった動特性チェックに見せるあまりの見事さによって、実に圧倒的に豊かです。●そしてCA-400の音は、例えば弦のあまりに繊細な美しさと、例えばヴォーカルのあまりにみずみずしい美しさによって、典型的なヤマハ・トーンである『音の気品』を体現して、このクラスに、奇跡の音のソノリティです。●プレーヤ2台、テープデッキ2台、スピーカ2組の端子装備。その他マイクキッキング回路など、付属回路も申し分ない装備です。

歪波形や歪成分まで美しく吟味した円熟の回路



CT-400

ステレオチューナー ¥40,000

●CT-400は、FM放送をラジオ的に聞くことを卒業してオーディオ的に本格的なプログラムソースの一つとして聴き込もうかという段階の人々に理想的なヤマハの自信作です。

●CT-400は、他のCTシリーズのように贅沢に凝った回路で執拗に性能を追求して行こ

うという方法とは違って、シンプルイズベストというもう一つのオーディオ哲学によって創られています。明快にして純粋な回路構成によって、その音は見事に明快で純粋そのもののFMサウンドで、シリーズの有終の美を飾るにふさわしく、あらゆるランクを超越

して素晴らしい『気品あふれるFMの音』です。

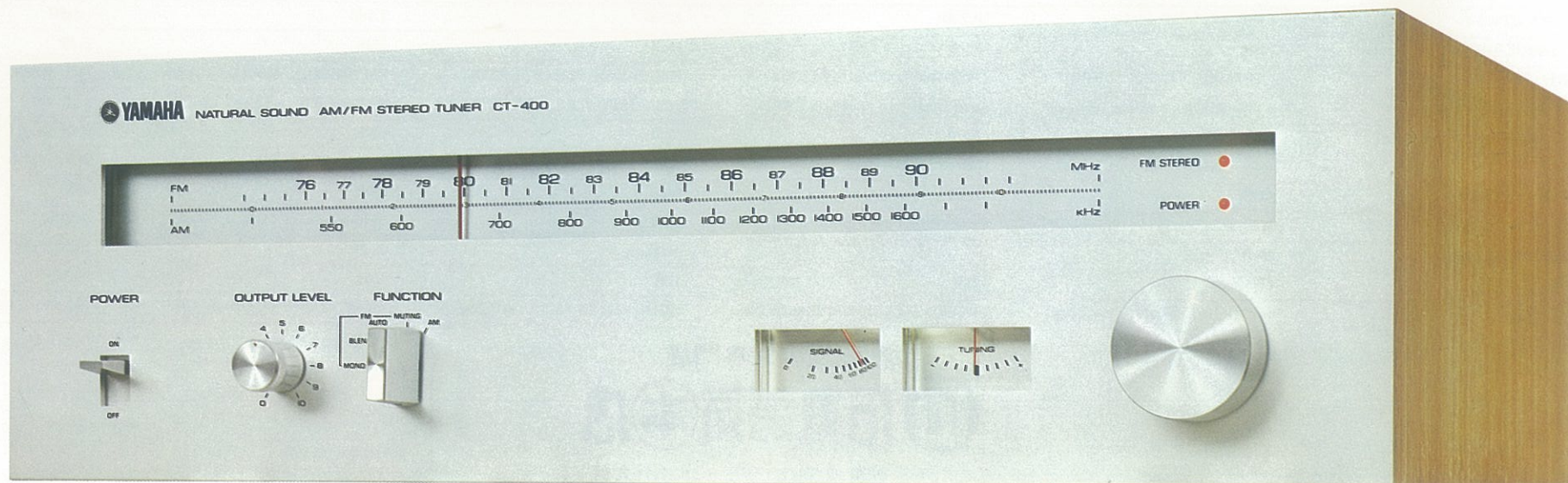
●フロントエンドは、低雑音で高周波特性の一段と秀れたジャンクション型FETを採用して、イメージ妨害比やスプリアス妨害比などが向上すると同時に、実用感度は $2.0\mu\text{V}$ を確保し、75dBという秀れたS/Nを実現しています。IF段は、定電流バイアス回路からなる高利得のIC差動アンプに6素子のセラミックフィルタを配し、ヤマハ独自の微分利得直視法でその位相特性をチェックするなどして、実効

選択度75dB、キャプチャレシオ1.5dBというこのクラスで随一の特性をマークしています。MPX回路には、2重平衡差動復調回路からなる高精度モノシリックICを採用して、ステレオ時の歪率0.5%以下と40dB以上のセパレーションとを安定しきった状態で達成しています。

●高周波特性もこれだけのレベルであれば、ほとんどの場合に、十分の余裕を残してほぼ100%のベスト受信が可能となるでしょう。実用ということから見た最高級チューナーです。

●CT-400のもう一つの贅沢は、CT-7000ゆずりのあまりに滑らかなタッチフィーリングと、CTシリーズに共通の2メータ方式です。AGCによって30dB以上の大入力に対しても飽和せず正確に入力強度を指示する新方式のシグナルメータと、ディスクリミネータの中心を示して歪最小と分離最大の最良の同調点を正確に指示するチューニングメータです。●ハイブレンドフィルタ、固定・可変の2系統出力端子、付属回路も申し分ない装備です。

十分な高周波特性とピュアな音色の純粋な回路



規 格	CA-X1	CA-1000 II	CA-800 II	CA-600	CA-400
実効出力(1kHz 両ch駆動 8Ω)	45W+45W(歪0.05%)	80W+80W(B級), 15W+15W(A級)	55W+55W(B級), 10W+10W(A級)	35W+35W	22W+22W
ダイナミックパワー(1kHz・8Ω)	125W	200W(B級), 30W(A級)	160W(B級), 20W(A級)	100W	70W
全高調波歪率(20Hz~20kHz・1W時)	0.025%以下	0.04%以下(B級), 0.02%以下(A級)	0.04%以下(B級), 0.02%以下(A級)	0.04%以下	0.04%以下
パワーバンド幅(IHF)	10~50kHz	5Hz~50kHz(B級), 5Hz~100kHz(A級)	5Hz~70kHz(B級), 5Hz~100kHz(A級)	5Hz~70kHz	8Hz~70kHz
ダンピングファクター(1kHz・8Ω)	50以上	70以上	70以上	70以上	50以上
メインアンプ周波数特性	20~20kHz ± 0.2 dB(AUX→SP OUT) -0.3 dB	10Hz~100kHz ± 0 dB	10Hz~100kHz ± 0 dB	10Hz~100kHz ± 0 dB	20Hz~50kHz ± 0.5 dB(AUX→SP OUT)
PHONO回路入力感度	2.5mV	2系統 3mV, 200μV(MC)	2系統, 3mV	2系統, 3mV	2系統, 3mV
PHONO最大許容入力(1kHz)	150mV r.m.s.	310mV r.m.s.	310mV r.m.s.	310mV r.m.s.	135mV r.m.s.
RIAA偏差	± 0.3 dB	± 0.2 dB	± 0.2 dB	± 0.2 dB	± 0.5 dB
トーンコントロールBASS	50Hz ± 12 dB	50Hz ± 15 dBターンオーバー250Hz↔500Hz	50Hz ± 15 dBターンオーバー250Hz↔500Hz	50Hz ± 10 dB	50Hz ± 12 dB
トーンコントロールTREBLE	10kHz ± 10 dB	10kHz ± 10 dBターンオーバー2.5kHz↔5kHz	10kHz ± 10 dBターンオーバー2.5kHz↔5kHz	10kHz ± 10 dB	10kHz ± 10 dB
フィルター LOW	25Hz(12dB/oct)	20Hz, 70Hz (12dB/oct)	20Hz, 70Hz(12dB/oct)	50Hz(12dB/oct)	50Hz(12dB/oct)
フィルター HIGH	—	6kHz, 12kHz(6dB/oct)	6kHz, 12kHz(6dB/oct)	8kHz(6dB/oct)	8kHz(6dB/oct)
ラウドネス	スイッチ式	コンティニューアスラウドネス	コンティニューアスラウドネス	コンティニューアスラウドネス	スイッチ式
消費電力	105W	195W	140W	120W	70W
寸法/重量	435(W)×160(H)×345(D)mm/8.7kg	436(W)×144(H)×323(D)mm/15.5kg	436(W)×140(H)×323(D)mm/14.0kg	436(W)×144(H)×323(D)mm/11.0kg	436(W)×144(H)×300(D)mm/8.0kg



規 格	CT-X1	CT-7000	CT-800	CT-600	CT-400
FM受信感度(IHF・84MHz)	1.8μV	2.0μV	1.7μV	2.0μV	2.0μV
イメージ妨害比(84MHz)	55dB	120dB	100dB	90dB	55dB
IF妨害比(84MHz)	75dB	120dB	100dB	95dB	75dB
スプリアス妨害比(84MHz)	75dB	120dB	100dB	95dB	75dB
キャプチャレシオ	1.0dB	0.7dB	1.0dB	1.5dB	1.5dB
実効選択度(IHF)	75dB	85dB	80dB	75dB	75dB
SN比	77dB(MONO), 71dB(STEREO)	78dB(MONO), 75dB(STEREO)	75dB(MONO), 72dB(STEREO)	70dB(MONO), 66dB(STEREO)	70dB(MONO), 66dB(STEREO)
全高調波歪率(400Hz)	0.15%(MONO), 0.25%(STEREO)	0.04%(MONO), 0.04%(STEREO)	0.15%(MONO), 0.3%(STEREO)	0.3%(MONO), 0.5%(STEREO)	0.3%(MONO), 0.5%(STEREO)
ステレオセパレーション(400Hz)	40dB	50dB	45dB	40dB	40dB
周波数特性	20Hz~15kHz ± 0.5 dB -3 dB	30Hz~15kHz ± 0.5 dB -1 dB	20Hz~15kHz ± 1.5 dB	20Hz~15kHz ± 1.5 dB -3 dB	20Hz~14kHz ± 1.5 dB -3 dB
サブキャリア抑圧比	40dB	70dB	60dB	40dB	40dB
AM受信感度(IHF・バーアンテナ)	52dB/m	—	52dB/m	52dB/m	52dB/m
AM選択度(1000kHz)	25dB	—	30dB	30dB	25dB
消費電力	7W	23W	12W	10W	2.6W
寸法/重量	435(W)×160(H)×349(D)mm/6.0kg	436(W)×144.5(H)×352(D)mm/13.0kg	436(W)×144(H)×323(D)mm/7.5kg	436(W)×144(H)×323(D)mm/7.0kg	436(W)×144(H)×300(D)mm/5.0kg

●価格は50年11月1日現在

●規格及び外観は改良のため変更する場合があります。